

キャラクター名
有栖川 結奈(ありすがわ ゆうな)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ウロボロス	ワークス	俳優	カヴァー	高校生/UGNイリーガル
オプション		年齢	16歳	性別	女
覚醒	渴望	衝動	破壊	初期侵食率	42 %
出自	資産家	経験	大転落	邂逅	好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	0	0			2	行動値	9
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	9
精神	3	0	0			3	戦闘移動	14
社会	0	1	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃			RC			交渉	1	
回避	1		知覚			意志		1	調達		
運転：感情	4		芸術：演技	4		知識：心理学	2		情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：料理	14		知識：爛	1		情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	2r+9	0	特殊		攻撃力は+[(消費したHP)+8]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
インプレム：イリーガルジョーカー	
造血剤	
携帯電話	
カジュアル	
アクセサリー（網状のネックレス）	
思い出の一品（ブラックダイヤモンド）	
思い出の写真	
未完のラブソング	
メモリー（時守瞬也/純愛）	
メモリー（両親/無関心）	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
Dロイス：戦闘用人格	P 感服	N 隔意		
RE：Sロイス：火燈爛	P 純愛	N 不安		
WH：時守桜	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
戦闘用人格	★	-	常時	至近	自身	自動	100↑	
効果：	あらゆる判定D+5個、攻+5 BTD-1個							
螺旋の悪魔	5	3	SU	至近	自身	自動		
効果：	R間攻+[LV*3] 即座に[暴走]							
抱擁	1	2	Ma	至近	単体	自動		
効果：	非オーヴァードの死亡を回復する							
赫き剣	5	3	Mn	至近	自身	自動		
効果：	[LV*2]HP消費し武器を作成							
破壊の血	5	2	Mn	至近	自身	自動	リミット	
効果：	↑攻+[LV*3] G値+5 HP-2							
原初の青：シャインブレード	10	3	Mn	至近	自身	自動		
効果：	シーン間[武攻]+[LV+2]							
極光螺旋	3	1~5	Mn	至近	自身	自動	80↑	
効果：	MP間攻+[コスト*LV] シーン1回迄							
原初の黒：ライトスピード	1	7	Mn	至近	自身	自動	100↑	
効果：	C値+1で[Ma]を2回行う 1回迄							
コンセントレイト：ウロボロス	3	2	Ma	-	-	Syn		
効果：	C値-[LV](下限値7)							
原初の赤：フレイムタン	1	3	Ma	視界	-	白兵		
効果：	射程変更 攻撃力-[5-LV]							
混色の氾濫	1	2	Ma	-	範(選)	Syn		
効果：	↑+対象変更 [LV]回迄							
亡者の爪牙	5	4	Ma	-	単体	白兵	120↑	
効果：	攻+[LV*4] 装甲値無視 即座に[暴走] 3回迄							
冥府の棺	1	2	Au	至近	自身	自動		
効果：	[暴走]以外のBSひとつを回復							

「……案外、悪くないものですよ。人生というもの」

『なんか私ギャグキャラになってる気がするんですけど。ま、それも御愛嬌って事で。さっさと終わらせましょう?』

【初期設定】
「……どうして……。どうして、こうなっちゃったの……?」

『世界は醜く穢くて。そして美しく素晴らしい。それは、まるで私のようで。全て、“破壊”してしまいたくなります』

資産家の娘として生まれ、幼い頃から英才教育を受けてきた少女。それは女優となる為に必要なものであり、彼女も必要だと思っていた。羨望の眼差しを向けられる者となる為に、彼女は日々邁進していた。

そんな過去も、遠い昔。両親のスキャンダルと共に、自身のあることないこと囁かれ。騒ぎが収束した頃には、自身の地位も崩落していた。

彼女が気付いた頃には、両親は彼女一人を置いて夜逃げて。向かう先を失った怒りの矛先は、自身を貶めた世界へと向けられる。——世界に、復讐する力が欲しい。

